

いわて生協 環境活動報告書

2009年版

(2008年4月度～2009年3月度の活動報告書)

環境理念

いわて生協は、地球の未来に責任をもつための行動を積極的にすすめ、生産・流通・消費・廃棄までの全過程にわたって、環境負荷低減と省エネルギー、省資源、リサイクルなどの環境保全型の社会づくりを目指します。

そうした中で、私たち一人ひとりが人間として、地球市民として、ライフスタイルを見直し、組合員と一緒に「持続可能な社会を実現する」ために率先して取り組むとともに、環境保全型社会システムづくりへの積極的な提言も行い、社会に貢献できるようにします。

環境方針

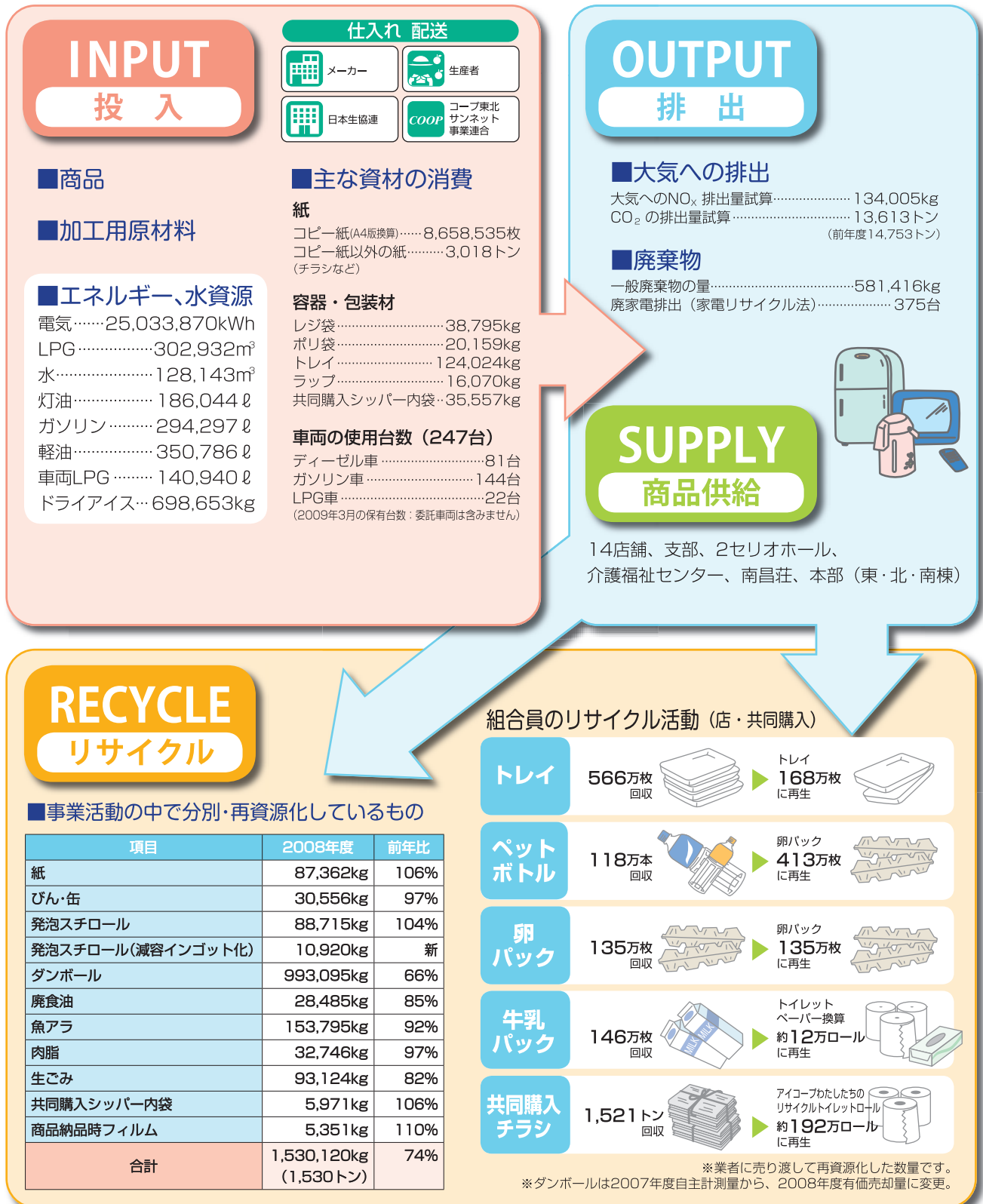
いわて生協は、食料品、家庭用品、衣料品、灯油等の商品を組合員に供給する事業と共済、葬祭、介護福祉等の事業を行っています。

こうした活動、商品、サービスによる環境影響の大きな項目については目的・目標を設定し、定期的に見直すとともに環境負荷の軽減と汚染の予防、環境マネジメントシステムの継続的改善を図ります。

- (1) 環境関連の法律・規制・条例・その他受入れを決めた要求事項を遵守するとともに自主基準を制定し管理を進めます。
- (2) いわて生協は環境理念の実現をめざして次の活動を進めます。
 - ① 地球温暖化と化石燃料等の枯渇を予防するために、電気使用量削減に継続的に取り組むとともに自然エネルギー活用の検討を進めます。
 - ② 業務用燃料の抑制のため省エネの取り組み、代替燃料や環境負荷の少ない車両の導入、エコドライブの実践を推進します。
 - ③ 環境に配慮したリサイクル商品などの環境商品の拡大、遺伝子組み換え原料を排除した商品の普及に努めます。
 - ④ 地産地消を重視し、環境負荷の少ない国産・県内産の生産物の普及を図り、産直商品の取り扱い比率の向上を進めます。
 - ⑤ 廃棄物処分場不足等の予防のために、「ゼロエミッ
- ション(ごみ排出ゼロ)」を目指し、廃棄物の削減と再資源化を推進します。
- ⑥ 組合員によるリサイクル活動やマイバッグ持参(レジ袋削減)の取り組みを推進します。
- ⑦ 紙類の使用量を抑制するとともに、事業活動でのリサイクルを推進します。
- ⑧ 環境に配慮した物品、資材の調達を推進します。
- ⑨ 岩手の森林を保全・育成する取り組みを進めます。
- (3) 定型教育、内部報、事業所ごとの会議等により、いわて生協常勤者及び常駐していわて生協のために働く人への教育・啓発を積極的に行い、環境方針の理解と周知、環境意識の向上を図ります。
- (4) この環境方針を内外に公開するとともに、環境活動の取り組み状況について定期的に公表します。

制定日2000年7月20日
最新第11版への改定日2009年3月30日
いわて生活協同組合 理事長 池田 和昌

● いわて生協の事業活動が環境に与えている負荷の状況



RECYCLE リサイクル

■事業活動の中で分別・再資源化しているもの

項目	2008年度	前年比
紙	87,362kg	106%
びん・缶	30,556kg	97%
発泡スチロール	88,715kg	104%
発泡スチロール(減容インゴット化)	10,920kg	新
ダンボール	993,095kg	66%
廃食油	28,485kg	85%
魚アラ	153,795kg	92%
肉脂	32,746kg	97%
生ごみ	93,124kg	82%
共同購入シッパー内袋	5,971kg	106%
商品納品時フィルム	5,351kg	110%
合計	1,530,120kg (1,530トン)	74%

組合員のリサイクル活動（店・共同購入）

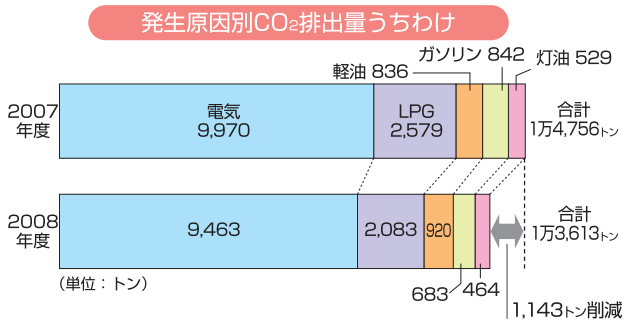
トレイ	566万枚 回収 	▶	168万枚 に再生 
ペット ボトル	118万本 回収 	▶	413万枚 に再生 
卵 パック	135万枚 回収 	▶	135万枚 に再生 
牛乳 パック	146万枚 回収 	▶	トイレット ペーパー換算 約12万ロール に再生 
共同購入 チラシ	1,521トン 回収 	▶	アイコーがたしたちの リサイクルトイレットロール 約192万ロール に再生 

※業者に売り渡して再資源化した数量です。
※ダンボールは2007年度自主計測量から、2008年度有価売却量に変更。

● 地球温暖化防止対策 (CO₂排出を減らす取り組み)

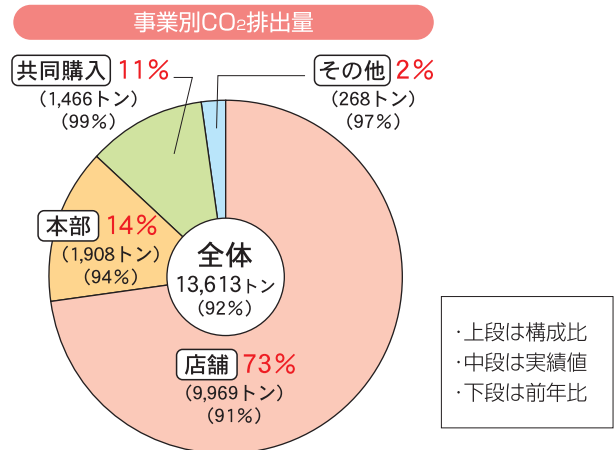
二酸化炭素(CO₂)排出量は前年比92%に減少

2008年度いわて生協の二酸化炭素 (CO₂) 排出量は13,613トン。電気の削減では「見エタロー」の導入、照明削減、冷蔵・冷凍設備の外部制御(エスコサービス)、太陽光発電などを推進。燃料ではバイオディーゼル燃料を継続使用。空調用LPGも削減できました。新店ベルフまつぞのがオープンした一方で、利用が減少した店舗を閉店したため、CO₂排出量を前年比92%と大幅に減らすことができました。



店舗で大幅減少、共同購入と本部は微減

事業所別では店舗合計で約1,000トン削減され、共同購入、本部もそれぞれわずかながら前年を下回りました。電気削減の取り組みに加え、共同購入でのエコドライブ推進による燃費改善や本部でのガソリン節約など、全部署でEMS (環境マネジメント) 活動を進めた結果です。



● レジ袋使用削減

レジ袋節約率が50%を突破 年間562万枚を節約

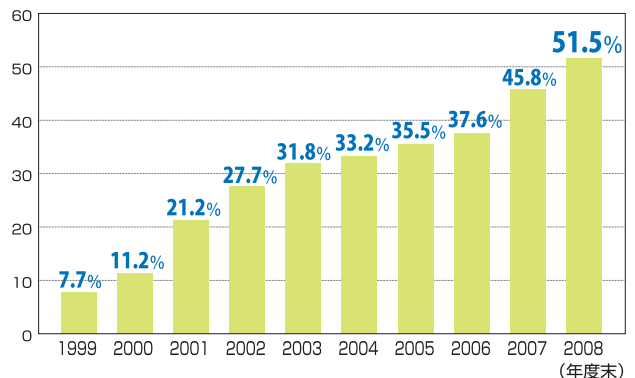
レジ袋節約率は2009年3月度に念願の50%を超過し全店平均で51.6%になりました。この節約率はレジ袋有料化を実施していない生協 (10店舗以上) では全国トップレベルです。

1990年の合併発足以来、組合員の参加と協力を積み重ねて「レジ袋節約組合員が過半数」になりました。

2008年度の実績

レジ袋節約率(2008年度末)	51.6%
節約できたレジ袋	562万枚
節約できた石油量推計	102,846ℓ (18ℓ缶で5,714缶)
CO ₂ 排出抑制効果	216,586kg

レジ袋節約率の推移



レジ袋の節約に「便利でラクチン」と好評のマイバケット。

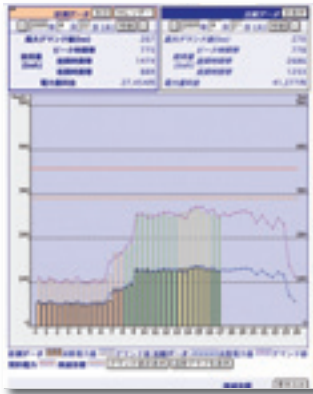


店舗のレジ袋節約コーナー。組合員にレジ袋節約を呼びかけている。

● 電気使用の削減

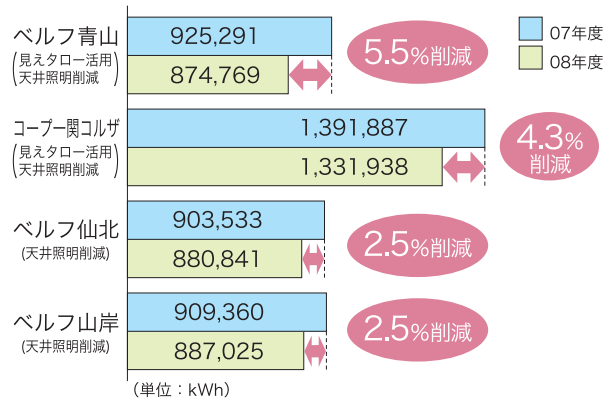
「見エタロー」効果で、2店舗の電気使用を下半期5%削減

「見エタロー」は電気の使用状況を即時にパソコンで“見える化”し、働く人の節電行動で電気使用を削減します。ベルフ青山とコープ関コルザで2008年9月から運用しています。2008年下期（10月度～3月度）は約5%削減でき、他店と比べて顕著な削減率を実現しました。



1時間ごとの電気使用量や料金が、前日比、最大時比較で表示される。

電気使用量の削減状況（10月度～3月度累計）



● 廃棄物削減

発泡スチロールの減容リサイクル施設が稼働

これまで産業廃棄物として業者に処理を委託していた発泡スチロール。その減容処理施設を本部構内に設置し、本部分（セットセンター、生鮮加工センター）の減容処理がスタートしました（2008年11月）。2009年3月から盛岡店舗分の処理もはじまり、年間約60トン（全体の70%）を減容。これにより発泡スチロールインゴットを有価売却することができ、産業廃棄物が大きく減少します。この施設は平成20年度岩手県地域ゼロエミッション事業の補助対象になり、処理機代金の1/3が補助されました。



処理で板状に減容(インゴット)。

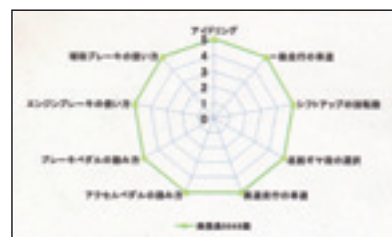


発泡スチロール減容・リサイクルセンター（滝沢村・本部構内）。

● エコドライブ

共同購入トラックの燃費が480m向上

「共同購入支部ではトラックの燃費向上に取り組み、全車平均1ℓ当たり5.96km走行を実現しました（前年実績5.48km）。2008年度はデジタルタコメーター搭載を30台まで進め、モニターや交流活動でエコドライブが大きく前進しました。“急”のつく運転をしない“エコドライブ”学習会を3回、各支部の交流会も6回開催しました。



デジタルタコメーターで、項目ごとに評価・点数が出される。

● 食品リサイクル

堆肥化や堆肥化実験、サファリパークへの提供を推進

食品残渣（生ごみ）の有効活用（リサイクル）は食料の無駄をなくす上で大きな課題です。

コープアテルイ（奥州市）では生ごみ堆肥化リサイクルを実施中ですが、盛岡市内店舗でも堆肥化リサイクルの実験が行われ、実施に向けて具体化が進んでいます。また、コープ関コルザでは2008年5月から野菜くずを岩手サファリパークへ提供しています。これにより、コルザの食品リサイクル率は大きく向上しました。



コープ関コルザ農産部門では、キャベツやトウモロコシの外葉を藤沢町の岩手サファリパークへ。



コープアテルイ惣菜部門では、生ごみと他のごみをしっかり分別。

● リサイクル回収

共同購入チラシ回収量が1,521トン。回収率は発行量の57%に増加

共同購入支部では配布したチラシを回収し、「わたしたちのリサイクルトイレットロール」の原料として提供しています。2008年度は回収量が初めて1,500トンを超え、チラシ発行量（2008年度2,681トン）に対する回収率は57%（前年54%）になりました。当面、回収率60%を目指してお知らせや取り組みを強めます。



見終わった共同購入チラシを回収。



セットセンターで一時保管。



一関市の製紙工場へ送り、「アイコープわたしたちのリサイクルトイレットロール」の原料に。

● 回収物の有価売却推進

組合員・事業からのリサイクル回収物の売却は3,468万円に

組合員のリサイクル参加と、事業からの廃棄物を減らしてできるだけリサイクルする取り組みを強めてきた結果、2008年度はリサイクル回収物の売却代金が3,468万円と過去最高になりました。新たに発泡スチロールの減容・リサイクルやダンボール回収、共同購入支部で組合員からのチラシ回収率向上を図った結果です。この内、牛乳パック売却代金は環境活動基金として積み立てられ、2009年3月末で545万円になっています。

● エコエコ探検隊

環境活動を現場で発見

親子でいわて生協の環境活動を学ぶ「エコエコ探検隊」は5店舗で7回開催され（前年は2回）、152人の組合員親子が参加しました。店内では「詰め替え商品」や「岩手県産の野菜」を探したり、バックヤードでは「魚アラ」のリサイクルの様子や、リサイクル回収物の整理作業など環境活動の「現場」を見学しました。



マスコミでも注目される取り組みに（2009年1月9日付岩手日報）。

● 1日エコライフ行動

組合員・常勤者の参加でCO₂1,719kg削減

2,475人が参加した「1日エコライフ」実践と、270家族が1か月間取り組んだ「電気ダイエット」の結果を集計すると、CO₂削減量は1,719kgになりました。

1日エコライフでは10項目の省エネに家族で取り組みました。参加者からは、「わずかな努力でCO₂を減らすことができるのを知りました」「テレビを消して、子どもと会話する時間がもて、よかった」などの感想がよせられました。



チャレンジシートに沿って、組合員・常勤者が一日省エネ行動。

1日エコライフ項目	実行できた人数	1日で減らせるCO ₂	減らせたCO ₂ の合計量
1 部屋を出るときは明かりを消した	1,896人	25	47,400
2 テレビをつけっぱなしにせず、見ていないときは消した	1,802人	45	81,090
3 洗剤やシャンプーを使いすぎず適量使った	1,799人	48	86,352
4 冷蔵庫の扉の開け閉めを少なくした	1,752人	12	21,024
5 シャワーのお湯は出しっぱなしにせず、こまめに止めた	1,741人	86	149,726
6 冷房は28℃以上に設定した	1,248人	111	138,528
7 レジ袋をもらわなかった	1,164人	42	48,888
8 部屋を片付けてから掃除機をかけた	963人	6	5,778
9 自動車などを使わずに徒歩・自転車・電車などで移動した	853人	400	341,200
10 白熱電球を電球形蛍光灯に交換した	407人	36	14,652
合計			934,638g

● 情報発信

いわて生協の環境活動を63回1,756人が見学

いわて生協は店舗の学校の社会科学見学、職場体験を積極的に受け入れ、その際に環境の取り組みをお知らせしています。同様の取り組みはセットセンター、生鮮加工センターでも行っており、2008年度の各事業所での受け入れ実績は63回1,756人になりました（組合員によるセットセンター見学を含みます）。



セットセンターのリサイクル活動を見学。

容器包装176トンを回収し、組合員家庭のごみ減量、CO₂排出抑制に役割発揮

いわて生協店舗は組合員のリサイクル活動の拠点として大きな役割を果たしています。2008年度いわて生協が回収した「容器包装」は牛乳パック48.8トン、食品トレイ28.3トン、ペットボトル70.1トン、卵パック22.9トン、共同購入シッパ-内袋5.9トンの合計176トンになりました。



リサイクル回収によるCO₂削減効果

項目	2008年度回収量	CO ₂ 削減効果係数 (kg当たり)	CO ₂ 換算
牛乳パック	48,850kg	170g	8,305kg
トレイ	28,306kg	3,200g	90,579kg
ペットボトル	70,839kg	733g	51,925kg
卵パック	22,913kg	733g	16,795kg
シッパ-内袋	5,971kg	2,968g	17,722kg
合計	176,879kg		185,326kg (185.3トン)

排出物リサイクルを推進し、共同購入セットセンターは実質ゴミゼロを実現

事業からの排出物削減では、引き続き分別強化とリサイクルを強めました。店舗からのダンボールの有価売却を進めたことにより、いわて生協全体のダンボール売却額は1,034万円になりました。

発泡スチロールを減容リサイクルしたことで、共同購入セットセンターでは可能なものが全てリサイクルされる（ゼロ・エミッション）状態になりました。



共同購入セットセンターでは、商品を補充しながら、ダンボール、内袋、ストレッチフィルム、エアパッキンなどを分別。チラシをセットしながら、ビニルひもやPPバンド、茶紙などを分別。

食品リサイクル率は56.4%の実績

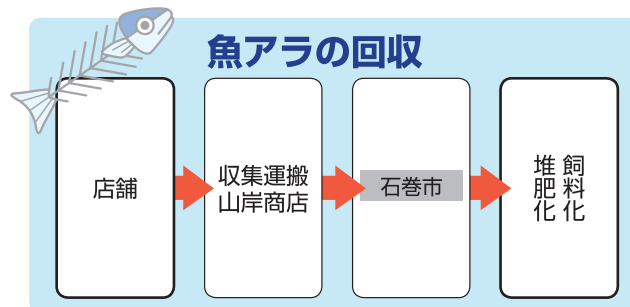
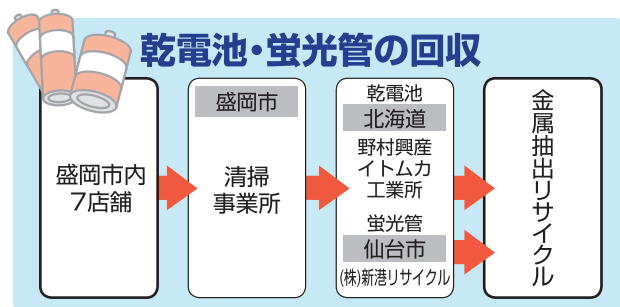
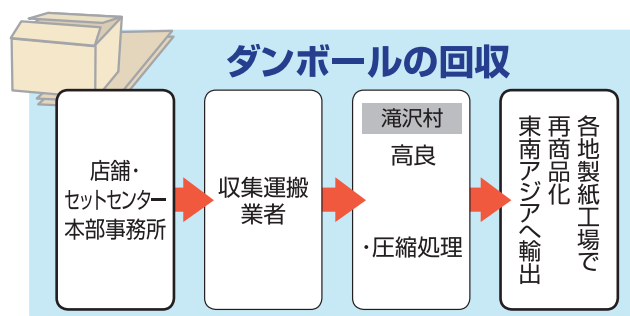
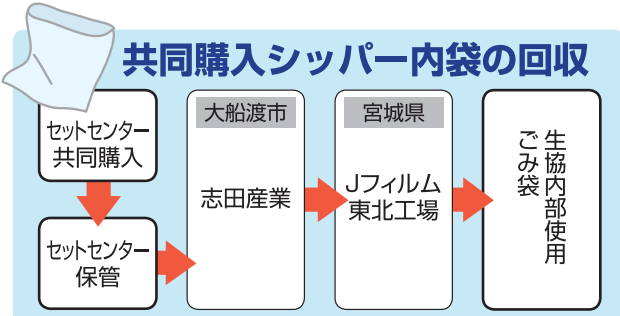
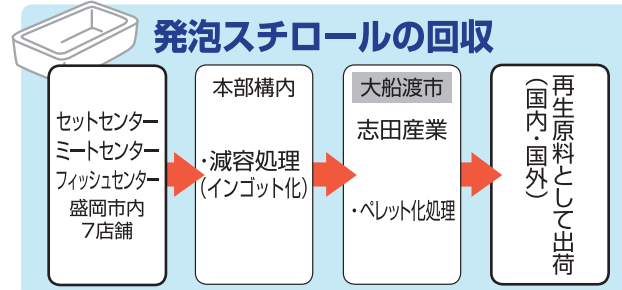
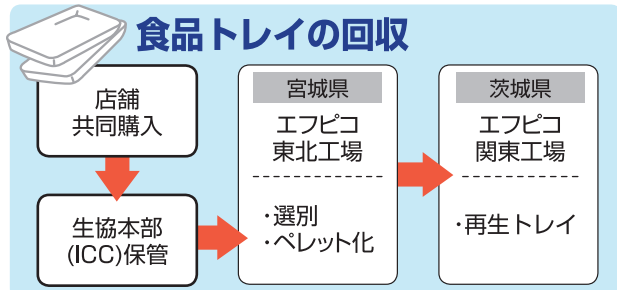
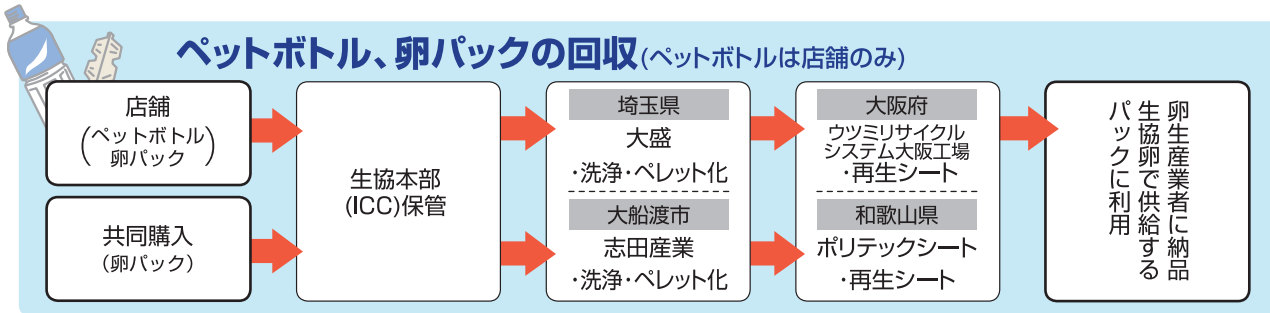
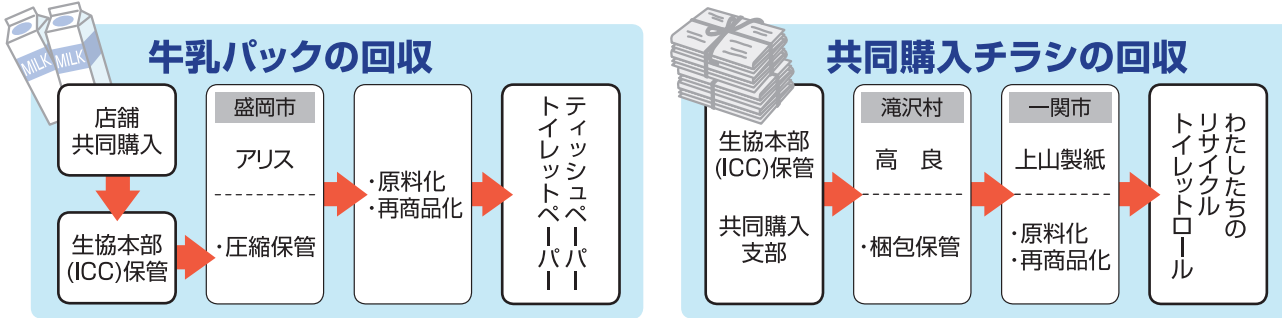
2008年度の食品リサイクル率は56.4%になりました。生ごみが堆肥化されていた花北オリザが閉店したため約3%下がりました。全店で魚アラ、肉脂、廃食油をリサイクルしているほか、コープアテルイ（奥州市）は生ごみ堆肥化リサイクルを実施。コープ関コルザでは農産生ごみを岩手サファリパークに提供しています。

（※食品リサイクル法では、食品小売業のリサイクル率目標は45%となっています。）

食品リサイクル率 **56.4%**

$$\text{食品リサイクル率 (\%)} = \frac{\text{リサイクルできている量 (256トン)}}{\text{リサイクル量 (256トン)} + \text{食品系廃棄物 (198トン)}} \times 100$$

● いわて生協のリサイクルの流れ



● CO₂排出量を削減できましたが「原単位」ではわずかに未達成

いわて生協は地球温暖化防止自主行動計画を作成し、日本生協連に提出しています。これは環境省のフォローアップの対象となり、国の京都議定書達成計画にリンクしています。

2008年度いわて生協の実績は、計画値を上回ってCO₂排出量削減できました。しかし、供給高1億円（原単位）当たりのCO₂排出量は、供給高が予算を下回ったため、わずかに未達成になりました。

■2008年自主行動計画数値と結果

		02年度[基準年]	08年度計画	08年度実績
供給高	店舗	25,972	21,272	20,936
		100.0%	81.9%	80.6%
	共購・個配	11,122	14,693	13,392
		100.0%	132.1%	120.4%
合計供給高[百万円]		37,094	35,965	34,328
		100.0%	97.0%	92.5%
CO ₂ 排出量	店舗	10,629	10,526	9,969
		100.0%	99.0%	93.8%
	共購・個配	979	1,471	1,466
		100.0%	150.2%	149.7%
合計CO ₂ 排出量[トン]		13,301	14,139	13,612
		100.0%	106.3%	102.3%
原単位	店舗	40.9	49.5	47.6
		100.0%	120.9%	116.4%
	共購・個配	8.8	10.0	10.9
		100.0%	113.7%	123.9%
商品供給金額当たり 全体CO ₂ 排出量[トン/億円]		35.9	39.3	39.6
		100.0%	109.6%	110.3%

※比率は2002年度比です

■2008年度の取り組みで削減できたCO₂排出量 (計測評価可能項目のみ)

	削減できた 電気使用量	CO ₂ 削減効果
1	店舗天井照明取り外し・消灯 (仙北、青山、山岸、一関コルザで408本)	96,766kWh 42.5トン
2	本部北棟塔屋照明消灯	5,604kWh 2.5トン
3	蛍光管反射板装着で1灯取り外し (3店、本部で26本)	3,936kWh 1.8トン
4	蛍光灯1灯取り外し (本部、一関コルザで12本)	1,287kWh 0.6トン
5	飲料自販機撤去 (本部北棟、東棟各1台)	6,240kWh 2.7トン
6	太陽光発電 (セリオホールみたけ)	10,580kWh 1.9トン
7	エスコによる外部制御 (仙北、コープアテルイ)	425,435kWh 186.2トン
8	バイオディーゼル燃料使用	310ℓ 0.8トン
合計		551,068kWh (電気のみ) 239.5トン

● 2009年度温暖化対策自主行動計画

CO₂排出量は13,613トン（2008年度実績）以下を目標に

2009年度のいわて生協のCO₂排出量は「ベルフ牧野林」の出店、けせん支部新設移転等があり、13,870トン程度と推計されます。これに対して、右記の対策を実施してCO₂排出量を260トン（1.9%）削減し、全体では2008年度実績以下に抑え込むことを目標にします。

1	店舗・本部の天井照明の見直し	6	本部北棟・南棟に西側窓断熱フィルム装着
2	店舗トイレに人感センサー配置、LED照明への交換検討	7	自販機の交換・削減検討
3	夜間に商品のない冷ケースの電源オフの設定	8	当直作業室の確保、日曜出勤の制限推進
4	店舗・支部の冷設入口の「のれん」「スイングドア」等未装着箇所への設置	9	共同購入でのBDF使用の拡大
5	セットセンター補充室照明のLED照明への交換検討		

● 商品各部の環境活動 「岩手県内産」普及を目標に持って推進しました

農産部

「顔とくらしの見える産直品の供給を6億3,000万円に増やす」
供給実績6億3,129万円と目標達成

- ①店舗ごとの産直コーナー（個店産直）の利用が伸びました。新店ベルフまつそのでも個店産直コーナーをスタートしました。
- ②店舗で年4回開催した「産直収穫祭」は大好評でした。生産者直売会などの新規取り組みも実施。
- ③常勤者の商品学習や産地視察（72人）見学の取り組み、「産地DVD」（6産地、8回作成）の作成・活用も進みました。



常勤者が産地研修で館ヶ森アーク牧場へ。

酒・米部

「産直米の供給（計画570トン）を促進する」

- ①09米穀年度の目標を570トンに設定、普及を進めています。お米の供給に占める産直米の割合は6割以上に高まりました。
- ②生産者との交流活動も活発に取り組みました。



田植えや稲刈りを体験しながら、産直米生産者と交流。

水産部

「三陸産アイコープ商品の供給を促進する」
供給実績6億309万円（目標比101.4%、前年比104.4%）と目標達成

- ①「真崎わかめ」を年間通じておすすめし、利用が伸びました。
- ②いか一夜干し、めかぶ、いか塩辛など商品の改善も進めました。
- ③フードマイレージ表示を4品で実施しました。



アイコープ真崎わかめを試食おすすめ。

惣菜部

「岩手県産食材を使用した惣菜の供給高を7,878万円にする」
供給実績9,359万円（目標比118%、前年比112%）で目標達成

- ①中国産食材の安全性への不安を受けて産地切り替えを進め、県産品を使う割合が増え、供給は大幅に伸長しました。
- ②商品開発の際は、「なるべく県産品、ない場合は国産品」を使うように意識的に取り組み、結果として計画を大幅達成できました。

日配部

「県産大豆使用の豆腐の供給促進（コープ豆腐類の中での県産大豆使用の豆腐の供給構成比57.5%を達成する）」
（目標の見直しで12月度から維持管理項目に変更）

- ①12月までの取り組みと数値結果から県産大豆使用豆腐の構成比低下が避けられない見通しとなり、目的・目標から維持管理項目に変更しました。
- ②年度累計構成53.6%、前年差-3.2%の結果でした。

畜産部

「県産原料使用の畜産物の供給を促進する」
供給実績6億2,282万円（目標比107.5%、前年比111%）と目標達成

- ①牛肉では岩手県産牛（交雑種）のおすすめ特別企画を実施しました。
- ②豚肉では挽肉企画を強化。アイコープ豚挽肉、しわ黒豚挽肉をおすすめしてきました。
- ③年度末に全店に「フードマイレージ」パネルを設置しています。今後商品ごとにフードマイレージのお知らせをめざします。



産直アイコープ豚のよさを売り場でもPR。

グロサリー部

「アイコープ商品のうち県内製造商品の供給を前年比102%に引き上げる」
供給実績9,352万円（前年比105%）で目標達成

- ①新商品のアイコープすき焼のたれが好評で、利用が増えています。
- ②アイコープわたしたちのリサイクルトイレットロールのリニューアルを進めました。

● 各部の活動の結果（2008年度目標の達成状況）

いわて生協は国際環境マネジメント規格（ISO14001：2004）も基づき各部で目標を決めて取り組んでいます。2008年度は電気使用量削減、レジ袋節約率など多くの目標項目で「達成」し、環境負荷を軽減できました。

電気使用料量の削減 ○目標達成 △未達成だが改善 ×未達成

目標項目	内容	結果	コメント
1	電気使用量を削減する（いわて生協全体）	前年比99%にする	△ 目標未達成(目標比100.2%、前年比では99.2%)でしたが、年間20万6千kWhの電力を削減。
2	電気使用量を削減する（店舗）	前年比99%にする（比較可能店舗）	○ ①目標比99.9%で達成。②前年比削減量は22万3千kWhで、金額換算は350万円相当。
3	電気使用量を削減する（本部北棟2階）	年間3,400kWhを削減する	○ 4,138kWhを削減し目標達成（目標比122%）。CO ₂ 排出削減量は2トン。飲料自販機1台削減、蛍光灯の間引き・プルスイッチ化など。
4	電気使用量を削減する（本部南棟）	前年比127kWh以上削減する	○ 電気削減の行動計画はすべて実施し、211kWhを削減し超過達成。
5	電気使用量を削減する（盛岡、久慈以外の支部合計）	前年比98%にする	○ 目標比99.6%と達成。達成支部は花北・釜石支部で、このへ以外の支部は前年以下に削減できた。



売り場通路の天井照明は、蛍光灯4本のうち2本を取り外し（ベルフ山岸）。

紙の使用

目標項目	内容	結果	コメント
1	コピー紙（内部印刷用紙）を削減する（本部北棟2階A4版換算）	コピー紙仕入れ量を前年比95%以下に管理する	○ 年間仕入れ量は前年比91%と目標を達成。枚数で23万枚削減、コストで14万円削減できた。
2	コピーカウント数を把握する（維持管理項目）	—	— いわて生協全体のコピーカウント数（店舗除く）は243万回と前年比91%の実績。
3	効率的な共済宣伝活動（共済福祉事業部）	チラシの配布状況、レスポンスを調べ集約、結果に基づき、効果的なチラシ活用を図る	○ 独自チラシの成約率は0.34%（目標0.31%、前年0.28%）に向上し目標を達成。



共済福祉事業部では、チラシの効果的活用を取り組みを実施。

廃棄物の削減

目標項目	内容	結果	コメント
1	廃棄物の有価物化とコストの把握（経営企画室）	廃棄物の有価物化と廃棄コストの両面を把握する管理を進める	○ 「廃棄物検討会」を16回開催し、有価物化の検討を進めた。店舗ダンボール、発泡スチロール減容インゴット売却を新たに実施できた。
2	廃棄物の排出量把握（維持管理項目）【食品リサイクル率】	—	— いわて生協全体の廃棄物は572トンで、前年の581トンをわずかに下回った（前年比98.6%）。【食品リサイクル率】食品の排出量（農産の廃棄、残商品、生ごみ、魚アラ、肉脂、食廃油）の合計は454トンと集計。食品リサイクル率は56.5%（前年は59.4%）となった。
3	残商品の排出抑制（惣菜部）	店舗での惣菜の廃棄物（廃棄ロス率）を2.5%にする。	○ 2008年度初めて設定した目標。2月、3月と2.5%を切ることができた。



ベルフまつぞの生ごみリサイクル実験で分別レベルをチェック。

資源の節約

目標項目	内容	結果	コメント
1	店舗でバラ供給を推進する（水産部）	月度でのバラ供給の実績把握 新規バラ売りアイテム拡大	○ 9月度以降7か月で901万点をバラ（ノートレイ）で供給。年間では約1,300万点の実績となり、トレイを使用したと仮定すると約320万枚に相当。
2	レジ袋節約率の向上	2009年3月度に全店平均50%到達	○ 3月度の到達目標50%に対して、51.6%で達成した。
3	共同購入トラックの燃料節約	共同購入トラックの燃費を前年比4%向上させる。	○ ①全車平均1ℓ当たり5.96kmの走行を実現でき、達成できた（目標5.69km、前年5.48km）。②デジタコは08年度中に30台まで導入。
4	業務使用認定車の燃料（維持管理項目）	（ガソリン+軽油）使用量を前年と同量に維持	○ 前年比70%と大きく削減できた。削減量は47,600ℓ。1ℓ100円として476万円の経費削減ができた。
5	共同購入トラックのCO ₂ 排出量の削減（共同購入事業部）	共同購入トラックのCO ₂ 排出量を前年比99%にする（1億円当たり）	× 供給高1億円当たりのCO ₂ 排出量は8,389kg（目標は8,022kg）と未達成。

環境情報の発信

	目標項目	内容	結果	コメント
1	フードマイレージの研究 (経営企画室)	フードマイレージの調査研究を深め、情報提供、学習会等を行う	△	データ整理のための検討会を2回行った。水産部は4品で表示を実施。その後畜産関係のデータ整理を行った。
2	メンテナンス企画の実施 (家電センター)	家庭用暖房機の分解整備の受注230台を目指す	○	300台受注でき達成。
3	環境配慮商品の普及 (セリオセンター)	エコ棺の利用率(利用本数/葬儀件数)30%を目指す	△	エコ棺の利用はセリオホール中野53件、同みたけ37件で計90件。利用率は19%と目標の30%には届かなかった。
4	環境配慮商品の普及 (共働社)	自動車保険にリサイクル部材使用の付帯特約を進める	○	昨年から目標に掲げ、契約時に呼びかけて75件(前年54件)の成約となった。
5	環境情報の発信を強める (店舗営業企画部)	セールチラシなどで環境情報を発信する	○	年間122件の環境関連情報を発信した(前年120件)。セールチラシ、BGM、ポスターのほか臨時媒体(仕込み味噌など)でも県産品をアピールした。
6	環境情報の発信を強める (広報室)	広報媒体で環境情報を発信する	○	ハローコープ、コープナウでの定期情報発信は計画通り実施。環境活動の取材を呼びかけるマスコミリリースは10回実施した。
7	環境情報の発信を強める (家電センター)	省エネ家電情報(5回)や暖房機メンテナンス情報を発信する	○	毎月、省エネ家電の紹介、メンテナンスチラシの配布、家電品の上手な使用の提案情報を発信した。
8	環境情報の発信を強める (灯油課)	灯油の安全な保管について情報提供する	○	計画通り実施された。ホームタンクの洗浄やメンテナンス・修理を249件受注できた。
9	組合員の環境教育の推進 (組織本部)	地球温暖化について知り、環境にやさしい行動をする人を増やす	△	①行動参加人数は、目標3,500人に対して2,744人(1日エコライフ参加者2,474人、電気ダイエット提出者270人)。親子エコエコ探検隊活動は7回実施(5店)。



ハローコープ5月号でいわて生協の環境活動を集録。

施設の環境配慮

	目標項目	内容	結果	コメント
1	灯油貯蔵施設の巡回点検の実施(灯油課)	冬季灯油期前に巡回計画を立て実施(消防法)	○	8月度、9月度、1月度の3回、店舗、支部の地下タンク周り、給油施設を巡回点検した。備品の不足、清掃、法規制項目を点検し、必要に応じて補充、連絡を行った。
2	新施設での環境配慮 (開発施設部)	ベルフまつその、久慈支部改装での環境対応設備の導入	○	①久慈支部では冷設での二温度設定システム、スリム蛍光灯、リサイクル材使用などの環境配慮を実施した。②ベルフまつそのでは、ベルフ山岸の環境配慮を踏襲した。



久慈支部(2008年9月開設)では8項目の環境配慮を実施。

啓発・環境意識の向上

	目標項目	目標内容	結果	コメント
1	取引先・他企業へのEMS普及	ローカルスタンダード(IES)を普及する	×	第3回「企業経営と環境セミナー」を開催。IES構築講座実施と集合コンサル実施。しかしIES認証取得は3社にとどまった。
2	常勤者で環境問題を学び、行動する (経理部、介護福祉センター、物流TC課、セットセンター)	電気ダイエット参加、キャンドルナイト参加など環境意識を高める	○	①経理部は1日エコライフ参加、毎月のノー残業デー、環境施設見学(2回)など多彩なプログラムを完全実施。②介護福祉センターは「年間の活動テーマを設定する」「電気ダイエットへの参加」「ヘルパーミーティングでの学習活動」を毎月実施した。③物流TC課では、「白熱灯から電球型蛍光灯への切り替え」等学習会を10回実施した。④セットセンターでは、毎月のミーティングで電気、廃棄物の振り返りを行い、ニュース回覧での確認を進めた。

いわて生協は2000年12月、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を取得しました。規格の要求事項に基づき内部環境監査を実施して自主的に環境マネジメント活動の改善を図り、外部審査機関の審査を受けてシステム全体・活動の見直し、向上を続けています。

全事業所対象に内部環境監査を31名の監査員が実施

- 1) **実施対象** 全ての店舗・支部・センター・部署（50サイト）とシステム全体（環境マネジメント責任者及び事務局）
- 2) **実施期間** 事業所監査／2009年1月19日（月）から2月21日（土）の5週間
システム全体監査／2009年1月28日（水）
- 3) **実施監査員** 31名
- 4) **監査員の指摘事項（監査所見）**
 - ① 所見の件数 58件（前年61件）
（内訳） 不適合A 1件（前年「重大な不適合」5件）
不適合B 21件（前年「軽微な不適合」25件）
改善の余地 36件（前年「観察」31件）
 - ② 各事業所の優れた取り組みや、監査員の助言等を記述する「所見書メモ」が96件集約されました。



2008年度、初めて監査対象となった南昌荘。落ち葉は廃棄せず、堆肥に使う組合員さんに差し上げます」と南昌荘の牧野典子さん。

外部審査機関による審査結果は「向上」

2008年10月に外部審査機関による「2年次サーベイランス」を受査しました。

- ① **審査機関** 株式会社日本環境審査機構（JACO）
- ② **審査期間** 2008年10月29日（水）～31日（金）
- ③ **審査員** 主任審査員 吉川洋
幹事審査員 西尾喜郎
- ④ **審査所見総括（要点）**
 - a) **法的及びその他の要求事項の順守に関するシステムとパフォーマンス**
環境側面に係わる法的要求事項等の特定は適切に実施されています。順守評価は定められた時期に実施されています。
 - b) **目的目標に関するシステムとパフォーマンス**
2007年度の目的・目標は23項目中17項目が達成されています。2008年度は計画検討の時期を早め、4月から確実に活動が開始されるシステムに変更されています。
 - c) **内部監査の実施、有効性**
内部監査は定められた時期に実施されています。実施に

当たり監査員の力量アップ、監査の重点項目の見直し等の改善が図られ、監査の有効性が向上しています。

d) マネジメントレビューの実施、有効性

マネジメントレビューは従来より2か月早めに実施し、指示事項が確実に次年度の活動に反映される時期に変更されており、レビューの有効性が図られています。

【審査所見の詳細Ⅰ】

「店舗の冷凍、冷蔵ショーケースの温度管理において、指定の温度範囲から逸脱しているにも関わらず、適切な処理が行われていません。

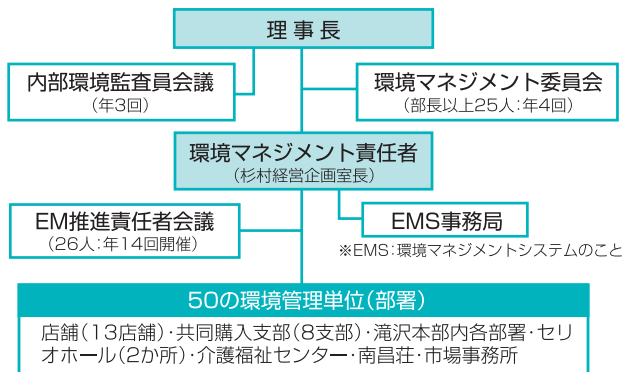
例：農産ショーケース管理範囲5～10℃が0～15℃の記録、
水産ショーケース管理範囲0～5℃が5～13℃の記録
（コープ山王）（不適合B）

ほかに「改善の余地」2件の指摘がありました。

【審査所見の詳細Ⅱ】

「マネジメントシステム及びパフォーマンス」として評価された所見が6件ありました。

● いわて生協環境マネジメント体制



②2008年12月26日(灯油のろう洩)

滝沢村いわて生協本部構内の回収ホームタンク置場で回収業者がホームタンクを転倒破損させたため、タンク内に残っていた灯油が地面にもれ、排水溝を通過して一部河川に流出した(約1~2ℓ)。消防署、滝沢村、国土交通省に連絡し、関係者立ち会いのもと、回収、除去作業を実施した。

■環境に関する苦情等(3件)

店舗建設工事、朝配達牛乳配達等の騒音が各1件、共同購入車両アイドリングストップ不徹底への指摘1件、計3件の苦情を頂きました。いずれも会議等での周知を行い、改善を図りました。

■環境関連の法規制と順法状況

環境関連の法規制について「環境法規制等登録表」に34本の法律と条令等を登録し順守状況を監視しています。産業廃棄物、アスベスト回収処理、フロン回収破壊処理、建設廃材リサイクル、家電リサイクル、PCB保管等ですべて適正処理の証拠(マニフェスト)を確保しています。肥料取締法に基づく閉店届を提出した際に過去の店舗の改廃の届出に欠落が見つかり逸脱がありました。ただちに訂正届出を実施しました。

■事故緊急事態の発生(2件)

①2008年12月24日(灯油のろう洩)

花巻市高木地区の組合員宅にて給油しようとしたところ、突然ホームタンクが倒れ、ケガは免れたものの灯油約50ℓが地面に流出した。消防署、市役所等へ連絡し、回収処理。側溝・用水路の洗浄処理を行った。

● 2008年度環境会計

「環境会計」は、1年間の環境関連の費用と活動の効果を概略的に説明しています。「環境経営」の視点から環境活動がどのようなコスト効果を生み出しているかを表しています。

環境保全の分類	環境コスト	内容
廃棄物の処理費用	2,507万円	一般廃棄物収集・運搬の費用・発泡スチロール等の処理委託費。魚アラ回収リサイクル費用
環境保全のための費用	1,483万円	大型店舗の環境維持状況(空気、水、害虫等)の検査・維持管理費用255万円
		浄化槽の保守点検費用、修繕費用184万円
		グリストラップ(除害設備)の定期清掃、排出物の処理費用996万円
		灯油地下タンクの定期漏洩検査・灯油施設点検費用48万円
地球温暖化対策・省エネのための費用	812万円	太陽光発電による発電量の電気料金換算18万円、減価償却費125万円 小計107万円
		エコサービスによる電気料金削減効果推計595万円(制御量データに料金単価をかけたもの:店舗全体の電気料金削減に直接連動しません)、エコサービス料金(年間)210万円 小計385万円
		空調効率向上のためのフィルター交換・清掃348万円、空調機の効率維持のための保守・点検費用640万円、店舗冷凍・冷蔵設備の保守点検契約費用102万円 小計1,090万円
レジ袋節約運動の直接収支差	239万円	レジ袋減少分921万円(節約枚数562万枚) レジ袋節約ポイントサービス682万円(1,363万ポイント×0.5円)
容器包装リサイクル法・家電リサイクル法の負担額	677万円	容器包装の再資源化委託料金659万円
		回収した対象家電品の拠点への運搬費用18万円
組合員のリサイクル物回収・再資源化の直接収支差	23万円	作業委託費316万円、機械保守料・備品28万円 小計344万円
		リサイクル品売却代金/牛乳パック42万円、ペットボトル・卵パック226万円、トレイ53万円 小計321万円
事業からの排出物の有価売却直接収支差	2,962万円	共同購入チラシ・本部古紙リサイクル売却2,013万円、ダンボール売却1,034万円、店舗廃食油29万円、肉脂9万円、鉄・廃プラスチック他35万円、発泡スチロール減容インゴット27万円、発泡処理費減48万円(4か月)、作業委託費207万円、減容機減価償却費26万円(4か月) 小計2,962万円
ISO14001更新審査費用	94万円	(株)日本環境認証機構による2008年度サーベイランス審査料

※ ■色は効果を示します。

year.1989

- ◆日配センター稼働（店舗への一括納品）
- ◆アルミ缶回収店舗拡大（山岸、天昌寺、中堤）
※回収したアルミ缶は「しいのみ学園」に提供
- ◆自販機42台を20台に削減（複数社商品を1台で扱う）

year.1990

- ◆牛乳パック回収スタート（トイレトーパー、ティッシュの原料に）
- ◆レジ袋節約スタンプ制スタート
- ◆いわて生協の環境シンボルマーク決定（公募）
- ◆印刷用紙、コピー用紙、名刺等の再生紙への切り替えを開始

year.1991

- ◆本部構内の廃紙、使用済み共同購入注文用紙の回収開始
- ◆布製買い物バッグの普及（第一次8,500枚）
- ◆発泡スチロールトレイの回収スタート
- ◆クリーニングハンガー回収スタンプ制導入
- ◆宮古地区店舗でアルミ缶店頭回収スタート
※障がい者通所施設の開設支援のため。94年に施設完成につきアルミ缶回収の活動停止

year.1992

- ◆コープ青山でアルミ缶回収スタート
- ◆コンポスト購入奨励金制度スタート（盛岡市の制度活用）
- ◆朝配達牛乳のびん容器化実験開始

year.1993

- ◆レシート用紙を再生紙に切り替え
- ◆包装フィルムの非塩ビラップへの切り替え実験着手
- ◆クリーニングハンガー有料回収スタート
- ◆720mlびん牛乳の朝配達を全県でスタート（びん牛乳普及で牛乳パック回収量減少）
- ◆レジ袋を透明化（行政のごみ袋透明化に対応）

year.1994

- ◆オリジナルのギフト簡易包装紙開発（サービス部門）
- ◆FC、MC、店舗の包装フィルムを非塩ビラップへ切り替え
- ◆店頭の飲料自販機の台数削減

year.1995

- ◆ペットボトルの店頭回収スタート
- ◆共同購入配達トラックにLPG車導入
※2000年でLPG車50台となり、半数超える

year.1996

- ◆共同購入盛岡3支部で使用済みチラシ回収、未使用注文用紙回収
- ◆「容器包装リサイクル法」施行 対応準備

year.1997

- ◆共同購入全支部で使用済みチラシの回収スタート
- ◆「グリーン購入ネットワーク」に加入
- ◆リサイクル、エネルギー、廃棄物の量的集計開始
- ◆店舗、FC、MCで廃棄物削減取り組みの具体化
- ◆使用トレイ規格の見直し、廃棄トレイの削減
- ◆リサイクルトレイへの切り替え（トレイからトレイへのリサイクルシステムへ変更）
- ◆盛岡市「ゴミ減量、リサイクル協力店」市内11店舗認定

year.1998

- ◆エコバッグ（オリジナル買い物袋）の開発、供給
- ◆ペットボトルの回収システム、ルールの変更（卵パックに再生）
- ◆回収した卵パックを卵パックにするシステムに切り替え
- ◆共同購入回収チラシを原料にしたアイコープトイレトーパーの開発（県内製紙工場、漂白に塩素不使用）
- ◆サンネット統一物流のノー伝票納品スタート（EOS伝票30%削減、事務効率アップ）
- ◆店舗新ユニフォームのマテリアル・リサイクルシステム開発
- ◆ベルフ青山にリサイクル買い物カゴ導入

year.1999

- ◆200ml低温殺菌びん牛乳新発売
- ◆伝票用紙の再生紙への切り替え着手
- ◆レジ袋有料化の検討→節約の実態づくりを先行させる方針に
- ◆常勤者環境講座の開催（全13回）、ISO14001認証取得プロジェクト設置

- ◆新開発アイコープ「だしたっぷりつゆ」容器に「エコボトル」採用（ワインボトルのカレットを原料に）
- ◆滝沢本部構内でリサイクルの分別、減容作業を県社会福祉事業団に委託（ペットボトル、卵パックの選別・減容・梱包）

year.2000

- ◆8月、ISO14001環境マネジメントシステム運用スタート
- ◆12月21日、県内小売業で初めてISO14001認証取得、登録

year.2001

- ◆いわて大環境祭（アピオ）に参加・出展し、いわて生協の環境活動をアピール
- ◆遺伝子組み換え原料、飼料の排除のとりくみが進む
- ◆コープ花北オリザ（北上市）の生ごみが11月に北上市のコンポストプラントに参加、リサイクルへ
- ◆排出物の実測把握と削減のとりくみが前進
- ◆印刷物の仕様を見直し、大豆インクへの切り替えを実施

year.2002

- ◆グリーン購入の規程、ガイドラインを決め、とりくみの強化をはかる
- ◆組合員カードの導入により、レジ袋節約がポイント制に移行
- ◆共同購入シッパー内袋を生協事業所で使用するごみ袋としてリサイクル化
- ◆水沢市にコープアテルイがオープン。デシカント空調導入やハートビル法適合、備品のグリーン購入などの対応がすすむ
- ◆リサイクルの増大、廃棄物削減などの環境のとりくみが多面的に推進される

year.2003

- ◆レジ袋節約率が30%を突破
- ◆コープアテルイ（奥州市）の生ごみが堆肥化リサイクルに移行
- ◆共同購入でコース再編、週5日配達実施で車両を20台削減
- ◆ISO14001更新審査を受け、認証を継続
- ◆環境会計の作成を開始し、環境報告書で公表

year.2003

- ◆ポラン農業小学校の活動が全国的に注目される
「いわておもしろ地産地消大賞」受賞（2月）
「いわてグラフ」「地上」等に掲載される
- ◆組合員のエコエコダイエット、キャンドルナイトの活動広がる
- ◆岩手県のエコショップ認定事業への申請
- ◆レジ袋節約率33%に。年度末目標達成
- ◆各種印刷物・帳票類の再生紙への切り換えが終了し、環境方針から「古紙混合率引き上げ」削除

year.2005

- ◆レジ袋節約率35.5%に。中期の目標を達成
- ◆「森林（もり）を守る募金」（2004年度分）県内4団体に40万円を寄贈
- ◆「森林（もり）を守る募金」（2005年度分）県内3団体に30万円を寄贈
- ◆共同購入トラックでバイオディーゼル燃料走行実験
- ◆14店舗が県内最初の「エコショップ認定」を受ける（その後全15店舗が認定）
- ◆太陽光発電、エスコ事業などの温暖化対策の検討
- ◆環境配慮を集中した「ベルフ山岸」オープン

year.2006

- ◆レジ袋節約率37.6%に。年間で465万枚を節約
- ◆共同購入トラック6台がバイオディーゼル燃料で走行
- ◆新設のセリオホールみたけに太陽光発電を導入
- ◆エスコ事業を2店舗で導入し温暖化対策実施
- ◆「森林（もり）を守る募金」（2006年度分）県内5団体に50万円を寄贈

year.2007

- ◆レジ袋節約率45.8%。年間502万枚節約
- ◆廃プラスチックのリサイクルを拡大
- ◆フードマイレージの視点で県産・国産の商品普及推進
- ◆第4回「森林（もり）の募金」県内3団体に30万円を寄贈

year.2008

- ◆発泡スチロール減容リサイクルをスタート（本部・盛岡店舗分）
- ◆見えタロー、エスコ、照明見直しで店舗電気使用を削減
- ◆共同購入トラックにデジタコ本格導入、燃費改善を実現
- ◆レジ袋節約率は51%に到達、年間562万枚節約